

令和元年度 学校教育自己診断集計結果

A：よくあてはまる
 B：ややあてはまる
 C：あまりあてはまらない
 D：まったくあてはまらない

【生徒回答】（回答数94名／対象数134名）

	診 断 内 容	A	B	C	D	A+B
1	学校に行くのが楽しい。	41.5%	27.7%	13.8%	17.0%	69.1%
2	先生は生徒の意見を聞いてくれる。	38.3%	36.2%	13.8%	10.6%	74.5%
3	授業はわかりやすく、楽しい。	27.7%	37.2%	22.3%	11.7%	64.9%
4	教え方に工夫をしている先生が多い。	35.1%	34.0%	19.1%	10.6%	69.1%
5	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	39.4%	37.2%	11.7%	9.6%	76.6%
6	担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に自分が気になることについて話ができる先生がいる。	40.4%	25.5%	17.0%	16.0%	66.0%
7	学校生活について、先生の指導に納得できる。	42.6%	26.6%	19.1%	10.6%	69.1%
8	授業や総合学習では、将来の進路や、生き方について考える機会がある。	38.3%	37.2%	16.0%	7.4%	75.5%
9	文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。	44.7%	30.9%	16.0%	8.5%	75.5%
10	体育祭は楽しく行えるよう工夫されている。	46.8%	26.6%	16.0%	10.6%	73.4%
11	命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある。	48.9%	28.7%	17.0%	5.3%	77.7%

【保護者回答】（回答数33家庭／対象数123家庭）

	診 断 内 容	A	B	C	D	A+B
1	子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	13.9%	52.8%	19.4%	13.9%	66.7%
2	先生は子どもを理解している。	27.8%	66.7%	5.6%	0.0%	94.4%
3	子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。	8.3%	38.9%	41.7%	8.3%	47.2%
4	子どもの学習内容に満足している。	22.2%	55.6%	13.9%	8.3%	77.8%
5	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	30.6%	50.0%	13.9%	2.8%	80.6%
6	気になる事柄について先生に相談しやすい。	27.8%	61.1%	8.3%	2.8%	88.9%
7	学校の生徒指導の方針に共感できる。	30.6%	52.8%	11.1%	5.6%	83.3%
8	学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	30.6%	58.3%	5.6%	5.6%	88.9%
9	学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	22.2%	27.8%	16.7%	33.3%	50.0%
10	学校は、教育情報について、提供の努力をしている。	36.1%	58.3%	2.8%	2.8%	94.4%
11	学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。	38.9%	50.0%	8.3%	2.8%	88.9%

【教職員回答】（回答数21人／対象数21人）

	診 断 内 容	A	B	C	D	A+B
1	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。	42.9%	47.6%	9.5%	0.0%	90.5%
2	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	19.0%	71.4%	9.5%	0.0%	90.5%
3	年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。	33.3%	42.9%	23.8%	0.0%	76.2%
4	本校では、到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる。	52.4%	38.1%	9.5%	0.0%	90.5%
5	本校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	23.8%	66.7%	9.5%	0.0%	90.5%
6	いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。	33.3%	57.1%	9.5%	0.0%	90.5%
7	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
8	生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%	95.2%
9	学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。	47.6%	42.9%	4.8%	4.8%	90.5%
10	教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。	33.3%	57.1%	9.5%	0.0%	90.5%
11	教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	100.0%
12	学校運営に、教職員の意見が反映されている。	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	85.7%
13	生徒の障がいや実態の多様化に対応した適切な教育活動をおこなっている。	28.6%	61.9%	9.5%	0.0%	90.5%
14	学校（担任）は保護者と密接な連携がとれている。	38.1%	57.1%	4.8%	0.0%	95.2%
15	学校は授業力向上のための校内公開授業等を積極的に推進し、また教員相互の授業を検討する機会を持ち、教材や指導方法など授業改善に取り組んでいる。	52.4%	42.9%	4.8%	0.0%	95.2%
16	コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
17	学校は体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、個人情報管理などすべての教育活動において人権尊重に基づいた指導が行われている。	52.4%	38.1%	9.5%	0.0%	90.5%
18	学校（教員）は組織として「報告・連絡・相談」が徹底されている。	33.3%	42.9%	23.8%	0.0%	76.2%
19	教員間の相互信頼があり、意見を率直に言える環境、雰囲気である。	28.6%	38.1%	33.3%	0.0%	66.7%

分析・検討事項

回答の(A+B)を肯定的回答とし、その割合を中心に分析・検討を行った。

【生徒】

昨年と比べた場合、1, 6, 7, 9~11の項目は、大幅な変化が見受けられない。それに対して、2, 3, 4の項目で5ポイント以上低下している。過去2年平均と比べた場合、5の項目で5ポイント以上向上している。また、昨年度と比べた場合、8の項目で5ポイント以上向上している。

1は1年次が低く、3年次が高い。それ以外の項目は、2年次が低く、3・4年次は高い傾向がある。

「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」という項目や、「授業はわかりやすく楽しい。」という項目、及び「教え方に工夫をしている先生が多い。」という項目が低下している。これは、教員の3分の1近くが昨年度から入れ替わったことも要因の一つではないかと推察される。新しく赴任してきた教員が本校での経験の長い教員と情報共有できる機会を増やすなど、生徒理解力や授業力向上にむけて積極的に取り組んでいく必要がある。

「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」という項目や、「授業や総合学習では将来の進路や生き方について考える機会がある。」という項目では昨年度より肯定率が上昇している。教育相談体制の充実や進路指導・キャリア教育への取り組みに成果が表れてきたと推察できる。

【保護者】

保護者アンケートについては、総じて高い評価を頂いているが、昨年度と比べると、3の項目で肯定率が18.2ポイント低下し、4の項目で9.1ポイント上昇している。

「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」と答えた割合が昨年度より大幅に低下し、今年度は5割を切っているという結果については、生徒アンケートと共通した課題である。これに対し、「子どもの学習内容に満足している。」と答えた割合が昨年度より大幅に上昇し、8割を超えている。授業や学習内容についての満足度が子どもの意見と保護者の意見で異なる傾向となっていることがわかる。

【教職員】

昨年度と比べた場合、3, 4, 9, 13, 17, 18, 19の項目で5ポイント以上低下している。これに対し7, 12の項目で5%以上向上している。

学習指導については、「年間の学習指導計画について各教科で話し合っている。」という項目が昨年度より14.7ポイント低下し、過去7年間で最低となっている。新教育課程に向けて、カリキュラムマネジメントの視点から教科の垣根を超えた学習指導計画の見直しを図っていくことが必要であると考えられる。これに対し、校内公開授業等を積極的に推進し、教員相互の授業検討の機械を持ち、教材や指導方法など授業改善に取り組んでいるという項目やコンピュータ等のICT機器が授業などで活用されているという項目については教職員の評価は高い。

また、「到達度の低い生徒に対する学習指導について全校的課題として取り組んでいる。」という項目や、「生徒の障がいや実態の多様化に対応した教育活動を行っている。」という項目、及び「すべての教育活動において人権尊重に基づいた指導が行われている。」といった項目が昨年度より低下している。これは、様々な配慮を要する生徒の割合が増加する中、学校として十分対応しきれない状況にあることに対する教職員の危機感の表れであると解釈できる。このような課題を解決するために、人的支援の方策について模索するとともに、教職員研修の充実や他校の実践例などの情報収集を行っていくことが必要である。

「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている。」という項目については、昨年度と一昨年度は肯定率が100%であったが今年度は90.5%に低下している。学校行事についても、生徒の満足度向上と教員の働き方改革とを両立させつつの見直しを行っていく必要がある。

「学校(教員)は組織として『報告・連絡・相談』が徹底されている。」という項目と、「教員間の相互信頼があり意見を率直に言える環境、雰囲気である。」という項目について、昨年度より大幅に低下している。このことは、学校組織としての大きな課題であり、今後教員間の意思疎通が活発に行われ、教員どうしが互いに信頼しあえる風通しの良い学校風土づくりが課題であるということが浮き彫りになっている。一方、「学校運営に教職員の意見が反映されている。」という項目については、昨年度より17.5ポイント上昇しており、改善傾向が見られる。

生徒指導面については、「教育相談体制が整備されており生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。」という項目については肯定率が過去7年間で昨年度のみ100%を割り込んだが今年度は100%に戻った。それ以外の「本校ではカウンセリングマインドに基づいた生徒指導を行っている。」という項目や、「いじめが起こった際の対応が整っており迅速に対応できる。」という項目、「教育活動において命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を作るように配慮している。」といった項目については昨年度同様教職員の評価は高い傾向にある。また、進路指導に関する項目についても教職員の評価は高い。

【全体をととして】

今回のアンケートでは、生徒や保護者、教職員それぞれのアンケート結果を分析することにより、様々な本校の抱える課題を読み取ることができたと考えられる。各項目の肯定率の経年変化から読み取れる本校の現状と課題、及びアンケートに記載していただいた様々な提言内容を踏まえて、次年度以降の学校経営の改善に努めていきたい。